知事コラム

外国人観光客



2月開会の県議会で話題の一つになったのが、「外国人の観光客を埼玉県へ招致しよう」というものです。円安ということもあり、一昨年に日本を訪れた外国人観光客が初めて1千万人を超えました。このことに刺激を受け、政府は東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年の外国人観光客の目標を2千万人としました。

埼玉県は、人口や県内総生産が日本全体の5%程度です。ざくっとした言い方をすれば、全国の20分の1の比率ですので、国の目標から割り戻せば埼玉県はさしずめ100万人が目標ということになります。

実は観光客とは別に「入込客（いりこみ）」という概念もあります。これは観光地だけでなくイベントや大型ショッピングセンターの客数なども集計したものです。埼玉県の入込客は25年で1億3千万人と全国有数の規模を誇っています。

埼玉の観光の素晴らしさを知ってもらえれば、このような多くの人たちの足を観光の方に向けてもらえる可能性があるということですので、埼玉県の観光の潜在力は高い、ということになります。

実際、埼玉県の観光県としての実力は相当なものです。人気の川越は、散策したい歴史ある町並みランキング全国3位で年間観光客が657万人、観光川下りのランキングで全国4位の長瀞は230万人、秩父や行田も善戦しています。お薦めの企業博物館で全国1位の鉄道博物館も年間で約100万人の来館者があります。さいたま市には世界の盆栽の聖地、盆栽村もあります。小京都といわれる飛騨高山の観光客が400万人、鳥取砂丘が130万人、金沢の兼六園が170万人、ハウステンボスが250万人ですから、埼玉県の実力は捨てたものではないと自信を持っていただきたいと思います。

問題は、この観光客をもっと増やし、そして外国人観光客の招致をどのようにして具現化するかです。県民の皆さん、良いアイデアがありましたらぜひ、観光課へご提案ください。

埼玉県知事 上田清司